## 基準一次エネルギー消費量を達成する取り組み(例)

### 1. Ia 地域の場合

表 1. 特定住宅イメージ I a 地域(基準値:124.9 GJ/年)

	断熱 性能	暖房 [GJ/年]	冷房 [GJ/年]	給湯 [GJ/年]	照明 [GJ/年]	換気 [GJ/年]	エネルキ <sup>*</sup> 一消費量 合計[GJ/年] 上段:基準値 下段:特定住宅消費量	達成率
Α	等級 4	石油熱源パネル ラジェーター 93.9	<u> </u>	石油瞬間式 (従来型)給湯 30.5	新築時に機器 <u>を設置しない場</u> 11.6	ダクト式 第三種 5.5	126.1 141.5	89%
В	等級 4	石油熱源パネル ラジェーター	_	石油潜熱回収	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	93%
		93.9	_	24.6	11.6	5.5	135.6	
С	等級 4	石油熱源パネル ラジェーター	-	石油潜熱回収 (節湯機器あり)	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	96%
		93.9	_	20.2	11.6	5.5	131.2	
D	等級 4	石油熱源パネル ラジェーター	-	石油潜熱回収 (節湯機器あり)	非居室のみ設置 (白熱灯なし)	ダクト式 第三種	126.1	98%
		93.9	_	20.2	9.1	5.5	128.7	'
E	等級 4	石油熱源パネル ラジェーター	_	太陽熱+ 石油潜熱回収 (節湯機器あり)	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	100%
		93.9	_	15	11.6	5.5	126.0	
F	等級 4	石油熱源パネル ラジェーター	_	太陽熱+ 石油潜熱回収 (節湯機器あり)	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種 (DCモーター採用)	126.1	101%
		93.9	_	15	11.6	4.1	124.6	
G	別表に よる	石油熱源パネル ラジェーター	_	石油瞬間式 (従来型)給湯	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	99%
	6 6	79.3	_	30.5	11.6	5.5	126.9	
Н	別表に よる	石油熱源パネル ラジェーター	-	石油潜熱回収	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	104%
		79.3	_	24.6	11.6	5.5	121.0	
I	等級 4	石油熱源パネル ラジェーター	_	石油瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第一種 熱交換型	129.8	109%
		67.3	_	30.5	11.6	9.6	119.0	
J	別表に よる	石油熱源パネルラジェーター	_	石油瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器を設置しない場	ダクト式 第一種 熱交換型	129.8	125%
		52.4	_	30.5	11.6	9.6	104.1	

- ▶ 断熱性能が等級 4 の場合、太陽熱温水器(補助熱源は高効率型)を採用することで基準相当となる。
- ▶ 断熱性能を向上させる(熱損失係数 Q=1.4W/Km² またはこれらと同等性能を有する冬季日射利用住宅の場合)ことで基準相当となる。
- ▶ 断熱性能が等級 4 以上の場合は、熱交換型換気システムを採用することで基準相当となる。

### 2. IVb 地域の場合

### 1)全館連続運転の場合

表 2. 特定住宅イメージ IVb地域(基準値:89.4 GJ/年)

							エネルキー当費量	
	断熱	暖房	冷房	給湯	照明	換気	合計[GJ/年]	達成率
	性能	[GJ/年]	[GJ/年]	[GJ/年]	[GJ/年]	[GJ/年]	上段:基準値	连队华
							下段:特定住宅消費量	
	等級	セントラル	セントラル	1 % - MA +4 1 - TO	新築時に機器を	第三種		
Α	4	システム	システム	がス潜熱回収型	設置しない場合	壁付け	89.4	92%
		~~-		400		ファン	~~	
	<u>ተ</u> ታ ሪፒ	38.5	24.3	18.6	11.6	4.1 #====	97.1	
	等級 4	セントラル システム	セントラル	がス潜熱回収型 (節湯機器あり)	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け	89.4	
В	4	ンステム	システム	(即汤惤岙のり)	設直しない場合		09.4	95%
		38.5	24.3	15.3	116	ファン 4 1	93.8	1
	等級	セントラル	セントラル	太陽熱+	新築時に機器を	第三種	30.0	
_	4	システム	システム	ガス潜熱回収型	設置しない場合	壁付け	89.4	
С		2777	277,1	(節湯機器あり)	改造しなり物目	ファン	••••	104%
		38.5	24.3	7.6	11.6	4.1	86.1	1
		セントラル	セントラル	がス瞬間式	新築時に機器を	第三種		
D	別表に	システム	システム	(従来型)給湯	設置しない場合	壁付け	89.4	102%
	よる					ファン		102/0
		23.5	26.2	22.2	11.6	4.1	87.6	
	等級	セントラル	セントラル	1 % - MA +4 1 - TO	新築時に機器を	ダクト式		
Е	4	システム	システム	ガス潜熱回収型	設置しない場合	第一種	94.3	96%
_						熱交換型		
	hete AT	33.7	24.3	18.6	11.6	9.6	97.8	
	等級	セントラル	セントラル	がス潜熱回収型	新築時に機器を	ダクト式	04.0	
F	4	システム	システム	(節湯機器あり)	設置しない場合	第一種	94.3	100%
		33.7	04.0	15.0	11.0	熱交換型	04.5	
		33.7 セントラル	24.3 セントラル	15.3 がス瞬間式	11.6	9.6	94.5	<u> </u>
G	別表に	システム	システム	(従来型)給湯	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第一種	94.3	
G	が表に	ンヘテム	システム	(1)此不空/和汤	改 但 し は い 場 百	第一 <sub>種</sub> 熱交換型	უ <del>4</del> .ა	110%
	6.9	15.8	26.2	22.2	11.6		85.4	1
		10.0	20.2	<i>LL.L</i>	11.0	0.0	UU. <del>T</del>	

- ▶ 断熱性能が等級 4 の場合、太陽熱温水器(補助熱源は高効率型)を採用することで基準相当となる。
- ▶ 断熱性能が等級 4 の場合、高効率給湯器(節湯機器あり)及び熱交換型換気システムを採用することで基準相当となる。
- ▶ 断熱性能を向上させる(熱損失係数 Q=1.9W/Km² またはこれらと同等性能を有する冬季日射利用住宅の場合)ことで基準相当となる。
- ▶ 断熱性能を向上させ(熱損失係数 Q=1.9W/Km² またはこれらと同等性能を有する冬季日射利用住宅の場合)、さらに熱交換型換気システムを併用することで基準相当となる。

# 2) 部分間欠運転の場合

表 3. 特定住宅イメージ IVb 地域(基準値:46.0 GJ/年)

	断熱 性能	暖房 [GJ/年]	冷房 [GJ/年]	給湯 [GJ/年]	照明 [GJ/年]	換気 [GJ/年]	ェネルギー消費量 合計[GJ/年] 上段:基準値 下段:特定住宅消費量	達成率
Α	等級 4	ルーム エアコンテ <sup>*</sup> ィショナー	ルーム エアコンテ ィショ ナー	がス潜熱回収型	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	46.0	94%
		10.4	4.2	18.6	11.6	4.1	48.9	
В	等級 4	ルーム エアコンテ <sup>*</sup> ィショナー	ルーム エアコンテ ィショ ナー	がス潜熱回収型 (節湯機器あり)	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	46.0	101%
		10.4	4.2	15.3	11.6	4.1	45.6	<u> </u>
С	別表に よる	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンディショ ナー	がス瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	46.0	94%
		6.3	4.7	22.2	11.6	4.1	48.9	
D	別表に よる	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンテ イショ ナー	ガス潜熱回収型	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	46.0	102%
		6.3	4.7	18.6	11.6	4.1	45.3	
Е	別表に よる	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンテ・ィショ ナー	がス瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第三種	52.6	105%
		6.3	4.7	22.2	11.6	5.5	50.3	
F	別表に よる	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンディショ ナー	がス瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第三種	47.2	94%
		6.3	4.7	22.2	11.6	5.5	50.3	
G	別表に よる	ルーム エアコンテ <sup>*</sup> ィショナー	ルーム エアコンディショ ナー	がス瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第三種 (DCモーター採用)	47.2	97%
		6.3	4.7	22.2	11.6	4.1	48.9	
Н	別表に よる	ルーム エアコンテ <sup>*</sup> ィショナー	ルーム エアコンテ・ィショ ナー	ガス潜熱回収型	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第三種	47.2	101%
_		6.3	4.7	18.6	11.6	5.5	46.7	

- ▶ 断熱性能が等級4の場合は、高効率給湯器(節湯機器あり)を採用することで基準相当となる。
- ▶ 断熱性能を向上させ(熱損失係数 Q=1.9W/Km² またはこれらと同等性能を有する冬季日射利用住宅の場合)、高効率給湯器を採用することで基準相当となる。

機器効率:家電トップランナー対象機器である石油熱源機、FF式暖房機については、目標年度を迎えた機器効率の基準値のうち、直近の値を参考とする。

ルームエアコンディショナーについては、設置する場合の仕様は、家電トップランナー 基準における 2010 年度目標基準値を参考とし、ルームエアコンディショナー以外の機器 を設置する場合及び暖冷房設備を設置しない場合の仕様は、目標年度を迎えた機器効率の 基準値のうち、直近の値を参考とする。(例えば、4kW 以下の場合は、2010 年度の目標基 準値ではなく、2004 冷凍年度における目標基準値を参考とする)。

セントラルエアコンについては、最新の情報(統計、メーカーへのヒアリング、カタログ値等)より、容量ごとの効率平均値を用いる。

別表 1	各断執性能の執揖失係数・夏季日射取得係数	
71177		

<u> </u>	・夏季日射取得係数	
地域区分	断熱性能	
	Ιa	1.4
劫提出反叛。	Ιb	1.4
熱損失係数 Q	П	1.4
【W/K·m²】	Ш	1.9
または これらと同等性能を有す	IVa	1.0
る冬季日射利用住宅	IVb	1.9
る今子口利利用圧七	V	1.9
	VI	3.7
	Ιa	0.00
	Ιb	0.08
	П	0.08
百子口牡虾组成料	Ш	0.07
夏季日射取得係数 μ	IVa	0.07
	IVb	0.07
	V	0.07
	VI	0.04